

国際緊急援助隊（JDR）

海外での人道危機を支援するため、日本は1979年に医療チームの派遣を開始しました。その後体制整備が行われ、1987年には「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」（通称JDR法）が施行。1992年の同法改正も踏まえ、救助チーム、医療チーム、専門家チーム、自衛隊部隊の派遣が可能となりました。また、2014年に西アフリカで流行したエボラ出血熱への支援の経験を踏まえ、感染症による被害に対してより効果的な支援を行うため、2015年10月に感染症対策チームが新たに設立されました。

地震や台風等の自然災害が多い日本では、これまでに災害対応に関する豊富な経験とノウハウを蓄積してきました。こうした経験を途上国の災害救援に生かしたいとの思いから、これらの5チームを災害の種類や規模、被災国の要請に応じて、いずれかのチームを単独ないしは複数のチームを組み合わせて派遣しています。



JDR医療チーム

医療チームは、被災者の診療にあたりるとともに、必要に応じて疾病の感染予防や蔓延防止のための活動を行います。メンバーは個人の意志で登録している医師、看護師、薬剤師、医療調整員の中から選ばれるのに加え外務省の職員やJICAの業務調整員から編成されます。隊の構成は被害状況や被災国のニーズに応じて、柔軟に対応できるよう体制を整えています。また、医療チームは国際緊急援助隊の中で最も歴史が長く、派遣回数も最多です。



理学療法士隊員について

国際緊急援助隊医療チームは病棟・手術機能を有する多職種チームです。理学療法士の派遣が必須ですが、まだまだ登録者数が足りていません。日本と同様に医師の指示のもとリハビリテーションを実施します。普段の臨床の経験を発揮し国際貢献する場がここにあります。多くの皆様の登録をお待ちしています。



派遣経験者に聞きました

訓練や研修はありますか？

まず本登録のための導入研修があります。本登録後は中級研修や、実際の資器材を使って模擬診療を行う展開訓練などがあります。しっかりとした研修が毎年ありますので、たくさんの事を学べます。

(豊木麻弓)



隊員登録のきっかけは？

東日本大震災をきっかけに災害支援に関心を持ちました。国内だけでなく海外でも活躍できる場があると知り、すぐに登録しモザンビークとトルコに派遣されました。

(水家健太郎)



登録を考えている方へのメッセージ

PTとして海外の災害支援に携わることのできる貴重な機会です。派遣国によっては猛暑だったり極寒だったり、なかなか厳しい環境での活動となりますが、チームでの活動ですので、業務面も生活面も隊員同士で助け合いが可能です。気さくで朗らかな隊員ばかりなので安心して飛び込んできていただければと思います。

(今小百合)

詳しくは↓

JICA JDR



活動内容

日常で行っているリハビリを実施しますが、屋外での活動、限られた資器材での活動であり、できることを考え工夫しながら活動していく必要があります。

また、リハビリの活動以外にも外来の受付業務やロジスティクス業務など、できることを見つけて活動していく必要があります。大変充実感のある活動となります。

(浅野直也)

